

(Japanese Academy of Learning Disabilities)

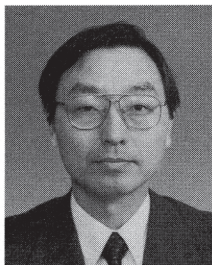


# 日本LD学会会報

第45号

事務局：栃木県カウンセリングセンター内

〒320-0851 宇都宮市鶴田町687-9 ムギショウビル2F TEL. 028-649-0090 FAX. 649-1213

URL. <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jald/>

## 期待されるLD教育士の活躍

小川町立東中学校

増田 博 信

十年一昔というが、LD（学習障害）の社会的認知度は年々高まり、教員等の入会者が急増することにより、本学会の会員数が二千名を超えた。学会発足当初の教育現場では、LDは知的障害と同意語と認知されていたことも珍しくなかったことを思い起こすと隔世の感がある。この意味においても本学会が果たした成果は相当に大きい。そして、本学会認定のLD教育士も誕生し、大きく変わりつつある教育の現場においてその活躍が期待されている。

まず、特殊教育は特別支援教育へ変わり始めている。平成五年に通級による指導が制度化され、昨年度までに指導を受ける対象者は倍増した。また、LD、ADHD、高機能自閉症により学習や生活面で特別な教育支援を必要とする児童生徒数の割合は、文部科学省の調査によれば約6%で通常の学級に在籍していることが公表された。平均すれば一学級に2～3名の困難を抱えた児童等の存在が確認されたといってもよいだろう。行政的に

も策を講じることは当然のことである。「今後の特別支援教育の在り方」（最終報告）において、一人一人の教育的ニーズに応じて特別の教育的支援を行う対象に含める必要性を認めている。ようやくここまで来たかという思いである。これを具体化するには、校内における特別支援教育体制の確立が急務となるが、誰にでもできるわけではないだろう。一般教職員の理解の促進、実態把握、教育的なニーズに基づく教育計画の作成等により、組織的な取り組みこそが、大きな教育力の発揮となる。専門家として、コーディネーターの役割を果たすことが重要となるだろう。

ただ待っていても教育は変わらない。今後もより高い専門性を有するLD教育士を養成し、実践と研究の積み重ねを推進力の原動力として、教育の中核となっていくことが肝要である。今私たちはこれまで以上に積極的な取り組みが求められている。